2025年10月15日

各　　位

会 社 名　株式会社ホギメディカル
代表者名　代表取締役社長　川久保　秀樹
（コード番号３５９３　東証プライム市場）
問合せ先　代表取締役副社長　藤田　泰介
（電話　０３－６２２９－１３００）

2026年３月期第２四半期（中間期）および通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は本日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、2025年４月24日に公表した業績予想を下記のとおり修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1.　連結業績予想の修正

（1）2026年３月期第２四半期（中間期）業績予想数値の修正（2025年４月１日～2025年９月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	１株当たり中間純利益
前回発表予想（Ａ）	百万円 20,170	百万円 1,840	百万円 1,900	百万円 1,300	円 銭 60.30
今回修正予想（Ｂ）	18,857	1,277	1,140	907	42.11
増減額（Ｂ－Ａ）	△1,312	△562	△759	△392	－
増減率（％）	△6.5	△30.6	△40.0	△30.2	－
（ご参考）前期実績 （2025年３月期第２四半期）	19,619	2,083	2,036	1,867	80.58

（2）2026年３月期通期業績予想数値の修正（2025年４月１日～2026年３月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（Ａ）	百万円 41,790	百万円 4,300	百万円 4,430	百万円 3,020	円 銭 140.08
今回修正予想（Ｂ）	39,240	2,770	2,590	2,030	94.16
増減額（Ｂ－Ａ）	△2,550	△1,530	△1,840	△990	－
増減率（％）	△6.1	△35.6	△41.5	△32.8	－
（ご参考）前期実績 （2025年３月期）	39,138	3,810	3,645	1,520	67.98

2.　個別業績予想の修正

（1）2026年３月期第２四半期（中間期）業績予想数値の修正（2025年４月１日～2025年９月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	１株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	19,880	1,740	1,710	1,200	55.66
今回修正予想（B）	18,628	1,085	867	690	32.01
増減額（B－A）	△1,251	△654	△842	△509	-
増減率（％）	△6.3	△37.6	△49.3	△42.5	-
（ご参考）前期実績（2025年３月期第２四半期）	19,325	1,820	1,594	1,501	64.77

（2）2026年３月期通期業績予想数値の修正（2025年４月１日～2026年３月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	41,140	3,700	3,900	2,720	126.16
今回修正予想（B）	38,580	2,200	2,100	1,530	70.97
増減額（B－A）	△2,560	△1,500	△1,800	△1,190	-
増減率（％）	△6.2	△40.5	△46.2	△43.8	-
（ご参考）前期実績（2025年３月期）	38,531	3,231	2,986	876	39.18

3.　業績修正の理由

医療機関を取り巻く環境は、医薬品・医療材料・エネルギーコストおよび人件費の高騰により、依然として厳しい状況が続いております。このような状況下、当社は当期計画において一定程度の価格競争を織り込むとともに、第２四半期以降にお客様の課題解決に資するプレミアムキット等の高付加価値製品の新規販売が進むことを見込んでおりました。

しかしながら、医療機関における赤字施設の拡大など、経営環境のさらなる悪化を受け、当社としましては、顧客ロイヤリティの維持を最優先とした販売戦略を展開した結果、第２四半期（中間期）の連結売上高は前年比96.1％、当初計画比93.5％の188.5億円にとどまる見通しです。さらに、人材採用や育成、研究開発、修繕費、DX関連費用などの投資的性質の費用が先行して発生したほか、本社移転や構造改革に伴う一時費用も計上した結果、販売費及び一般管理費が増加しました。この影響により、営業利益は前年比61.3％、当初計画比69.4％の12.7億円にとどまる見通しです。

下期においては前期を上回る売上高を見込んでおりますが、第２四半期（中間期）の遅れを完全に挽回するには至らないと判断し、通期業績予想を修正することといたしました。

なお、配当につきましては、資本収益性の向上に向けて累進配当を基本とする方針を維持し、今回の業績予想の修正に伴う配当予想の変更は行わない方針です。

4.　今後の取り組み

当社は、医療機関の厳しい経営環境に対応するため、材料費の抑制にとどまらず、手術室稼働率の改善、働き方改革を踏まえた時間外労働の縮小、タスクシェアリング/シフティングの推進などを通じて、医療機関のトータル収支の改善に向けた取り組みを推進しております。このような取り組みの結果、第２四半期（中間期）においては、オペラマスター施設の契約件数は４件純増し、今後もさらなる増加が見込まれております。これらの施設では、下期以降、プレミアムキットをはじめとする製品の販売拡大が期待されており、前期を上回る全社売上の成長に寄与する見通しです。

また、営業活動の強化に加え、新規部材の上市やDX商材の拡充など、2024年７月16日に公表した中期経営計画に基づくプログラムは概ね予定通り進捗しております。当社は、引き続き中期経営計画の達成を目指すとともに、中長期的な成長を支える構造改革を推進してまいります。

（注）上記予想は、本資料の発表日現在で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以　上